

平成 27 年度 長崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

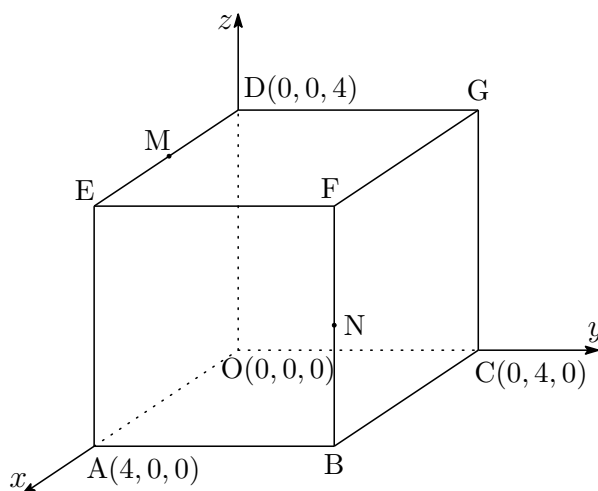
平成 27 年 2 月 25 日

- 教育・薬学部は, [3], [4], [5], [7] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 工・歯学部は, [3], [4], [5], [6] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 経済・水産・環境科学部は, [1], [2] 数 I・II・A・B (80 分)
- 医学部は, [3], [4], [5], [8] 数 I・II・III・A・B (120 分)

[1] 2つの放物線 $C_1: y = x^2$, $C_2: y = x^2 - 2ax + 2a^2$ を考える. ただし, $a > 0$ とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) 放物線 C_2 の頂点の座標を a を用いて表せ.
- (2) 2つの放物線 C_1 , C_2 の共通接線を l とし, C_1 と l との接点の x 座標を p , C_2 と l との接点の x 座標を q とする. p と q の値および l の方程式を, それぞれ a を用いて表せ.
- (3) 放物線 C_1 , C_2 および接線 l によって囲まれた図形の面積を S_1 とする. S_1 を a を用いて表せ.
- (4) 点 $\left(-\frac{a}{2}, \frac{a^2}{4}\right)$ における C_1 の接線を m とする. このとき, m の方程式を a を用いて表せ. また, m と接線 l との交点の x 座標を求めよ.
- (5) 放物線 C_1 および接線 l , m によって囲まれた図形の面積を S_2 とする. S_2 を a を用いて表せ. さらに, $\frac{S_2}{S_1}$ の値を求めよ.

- 2 4点 $O(0, 0, 0)$, $A(4, 0, 0)$, $C(0, 4, 0)$, $D(0, 0, 4)$ をとり, 下図のように線分 OA , OC , OD を3辺とする立方体 $OABC-DEFG$ を考える. 辺 DE , BF の中点を, それぞれ M , N とする. 以下の問いに答えよ.



- (1) ベクトル \overrightarrow{GM} および \overrightarrow{GN} を成分で表せ.
 - (2) $\angle MGN = \theta$ とする. $\cos \theta$ の値を求めよ.
 - (3) 3点 G, M, N を頂点とする三角形 GMN の面積を求めよ.
 - (4) 三角錐 $FGMN$ において, 三角形 GMN を底面としたときの高さを求めよ.
 - (5) 三角形 GMN を含む平面と線分 OF との交点を P とする. このとき, \overrightarrow{OP} を \overrightarrow{OF} を用いて表せ.
- 3 放物線 $C: y = x^2$ 上に異なる2点 P, Q をとる. P, Q の x 座標をそれぞれ p, q (ただし, $p < q$) とする. 直線 PQ の傾きを a とおく. 以下の問いに答えよ.
- (1) a を p, q を用いて表せ.
 - (2) $a = 1$ とする. 直線 PQ と x 軸の正の向きとなす角 θ_1 (ただし, $0 < \theta_1 < \pi$) を求めよ.
 - (3) $a = 1$ とする. 放物線 C 上に点 R をとる. R の x 座標を r (ただし, $r < p$) とする. 三角形 PQR が正三角形になるとき, 直線 PR と x 軸の正の向きとなす角 θ_2 (ただし, $0 < \theta_2 < \pi$) を求めよ. また, このとき直線 PR の傾き, および直線 QR の傾きを, それぞれ求めよ. さらに, 正三角形 PQR の面積を求めよ.
 - (4) $a = 2$ とする. 放物線 C 上に点 $S(1, 1)$ をとる. 三角形 PQS が $\angle S = \frac{\pi}{2}$ である直角三角形になるとき, この三角形の面積を求めよ.

- 4 ひし形の紙がある(図1). 点線で半分に折ると正三角形になった(図2). これを少し開いて机の上に立てると, 三角錐の形になる. その高さを次のようにして求めたい.

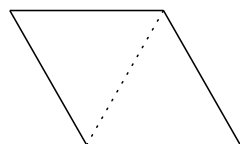


図1

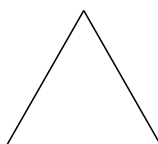


図2

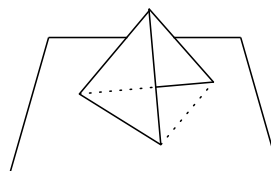


図3

図4において, 2つの正三角形 OAB と OAC の1辺の長さを1とする. 点 O と平面 ABC の距離が, 三角錐 OABC の高さになる.

空間ベクトルを利用してこの高さを求める. $\vec{OA} = \vec{a}$, $\vec{OB} = \vec{b}$, $\vec{OC} = \vec{c}$, $\angle BOC = \theta$ とおき, 線分 BC の中点を M とする. 以下の問いに答えよ.

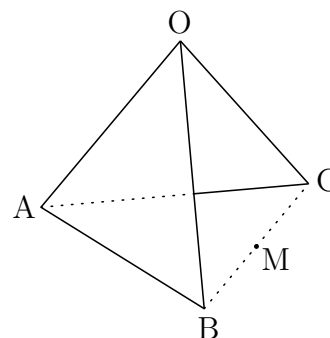


図4(図3の拡大図)

- (1) \vec{OM} と \vec{AM} を, \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} を用いて表せ.
- (2) 内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ と $\vec{a} \cdot \vec{c}$ の値を求めよ. また, $|\vec{b} + \vec{c}|^2$ の値を $\cos \theta$ を用いて表せ.
- (3) 実数 t に対して $\vec{OH} = (1-t)\vec{OA} + t\vec{OM}$ とおくと, 点 H は直線 AM 上にある. このとき, $\vec{OH} \perp \vec{BC}$ が成り立つことを示せ. さらに, H が $\vec{OH} \perp \vec{AM}$ を満たす点であるとき, t の値を $\cos \theta$ を用いて表せ.
- (4) 三角錐 OABC の高さを h とする. h を $\cos \theta$ を用いて表せ. さらに, $\vec{OM} \perp \vec{AM}$ が成り立つとき, θ と h の値を求めよ.

5 以下の問いに答えよ.

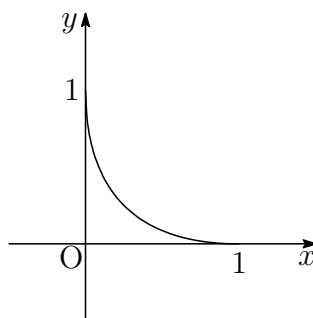
- (1) 次の関係式によって定められる数列 $\{a_n\}$ について, 一般項 a_n と $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$ を求めよ.

$$\begin{cases} a_1 = 1 \\ a_{n+1} - (\sqrt{2} + 1)a_n = 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \end{cases}$$

- (2) 次の極限值を求めよ.

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{n^2 + 1^2} + \frac{2}{n^2 + 2^2} + \frac{3}{n^2 + 3^2} + \dots + \frac{n}{n^2 + n^2} \right)$$

- (3) 曲線 $C: \sqrt{x} + \sqrt{y} = 1$ と x 軸および y 軸で囲まれた下図の図形を, x 軸のまわりに 1 回転させてできる立体の体積を求めよ.



6 実数 $x \neq 1$ について定義される関数

$$f(x) = \frac{1+x}{1-x}$$

を考える. 以下の問いに答えよ.

- (1) $f'(x)$ と $f''(x)$ を求めよ.
- (2) $\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x)$, $\lim_{x \rightarrow 1-0} f(x)$, $\lim_{x \rightarrow 1+0} f(x)$, $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x)$ を求めよ.
- (3) x 座標と y 座標がともに整数である点を格子点という. 曲線 $y = f(x)$ 上の格子点の座標をすべて求めよ.
- (4) 関数 $y = f(x)$ のグラフをかけ.
- (5) $x \leq 0$ かつ $y \geq 0$ で表される領域において, x 軸と y 軸および曲線 $y = f(x)$ で囲まれた図形の面積を求めよ.

7 区間 $0 \leq x \leq \pi$ 上で定義される関数

$$f(x) = \cos 2x - 4 \sin^3 x$$

について、以下の問いに答えよ。

- (1) 関数 $f(x)$ の最大値と最小値を求めよ。
- (2) 不定積分 $\int f(x) dx$ を求めよ。
- (3) 方程式 $f(x) = 0$ の解を求めよ。
- (4) 曲線 $y = f(x)$ と x 軸で囲まれた図形の面積を求めよ。

8 自然対数の底を e とする。区間 $x \geq 0$ 上で定義される関数

$$f(x) = e^{-x} \sin x$$

を考え、曲線 $y = f(x)$ と x 軸との交点を、 x 座標の小さい順に並べる。それらを、 P_0, P_1, P_2, \dots とする。点 P_0 は原点である。

自然数 n ($n = 1, 2, 3, \dots$) に対して、線分 $P_{n-1}P_n$ と $y = f(x)$ で囲まれた図形の面積を S_n とする。以下の問いに答えよ。

- (1) 点 P_n の x 座標を求めよ。
- (2) 面積 S_n を求めよ。
- (3) $I_n = \sum_{k=1}^n S_k$ とする。このとき、 I_n と $\lim_{n \rightarrow \infty} I_n$ を求めよ。

正解

1 (1) $C_2: y = (x - a)^2 + a^2$ であるから, C_2 の頂点の座標は (a, a^2)

(2) $y = x^2$ を微分すると $y' = 2x$

$y = x^2 - 2ax + 2a^2$ を微分すると $y' = 2(x - a)$

C_1 上の点 (p, p^2) における接線の方程式は

$$y - p^2 = 2p(x - p) \quad \text{すなわち} \quad y = 2px - p^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

C_2 上の点 $(q, q^2 - 2aq + 2a^2)$ における接線の方程式は

$$y - (q^2 - 2aq + 2a^2) = 2(q - a)(x - q)$$

すなわち $y = 2(q - a)x - q^2 + 2a^2 \quad \dots \textcircled{2}$

①, ② の直線は一致するから

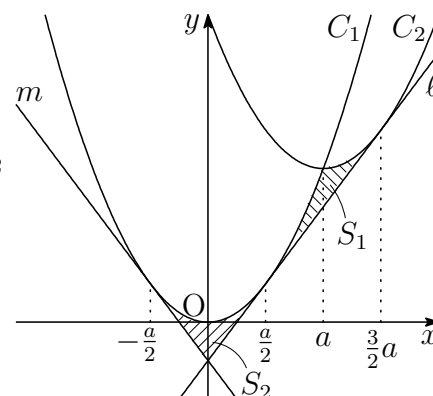
$$2p = 2(q - a), \quad -p^2 = -q^2 + 2a^2$$

ゆえに $q - p = a, \quad (q + p)(q - p) = 2a^2$

よって $p = \frac{a}{2}, \quad q = \frac{3}{2}a$

また, ① から l の方程式は

$$y = ax - \frac{a^2}{4}$$



(3) C_1 と C_2 の共有点の x 座標は

$$x^2 = x^2 - 2ax + 2a^2 \quad \text{ゆえに} \quad x = a$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad S_1 &= \int_{\frac{a}{2}}^a \left\{ x^2 - \left(ax - \frac{a^2}{4} \right) \right\} dx \\ &\quad + \int_a^{\frac{3}{2}a} \left\{ (x^2 - 2ax + 2a^2) - \left(ax - \frac{a^2}{4} \right) \right\} dx \\ &= \int_{\frac{a}{2}}^a \left(x - \frac{a}{2} \right)^2 dx + \int_a^{\frac{3}{2}a} \left(x - \frac{3}{2}a \right)^2 dx \\ &= \left[\frac{1}{3} \left(x - \frac{a}{2} \right)^3 \right]_{\frac{a}{2}}^a + \left[\frac{1}{3} \left(x - \frac{3}{2}a \right)^3 \right]_a^{\frac{3}{2}a} = \frac{a^3}{12} \end{aligned}$$

- (4) C_1 は y 軸に関して対称である. C_1 上の2点 $\left(\frac{a}{2}, \frac{a^2}{4}\right)$, $\left(-\frac{a}{2}, \frac{a^2}{4}\right)$ は y 軸に関して対称であるから, C_1 上のそれぞれ点における接線 l , m は y 軸に関して対称である. よって, m の方程式は

$$y = -ax - \frac{a^2}{4}$$

したがって, l と m の交点の x 座標は $x = 0$

- (5) C_1 および l , m によって囲まれた図形は, y 軸に関して対称であるから

$$\begin{aligned} S_2 &= 2 \int_0^{\frac{a}{2}} \left\{ x^2 - \left(ax - \frac{a^2}{4} \right) \right\} dx \\ &= 2 \int_0^{\frac{a}{2}} \left(x - \frac{a}{2} \right)^2 dx = 2 \left[\frac{1}{3} \left(x - \frac{a}{2} \right)^3 \right]_0^{\frac{a}{2}} = \frac{a^3}{12} \end{aligned}$$

これと (3) の結果から $\frac{S_2}{S_1} = 1$

- 2** (1) $G(0, 4, 4)$, $M(2, 0, 4)$, $N(4, 4, 2)$ であるから

$$\overrightarrow{GM} = (2, 0, 4) - (0, 4, 4) = (2, -4, 0)$$

$$\overrightarrow{GN} = (4, 4, 2) - (0, 4, 4) = (4, 0, -2)$$

- (2) (1) の結果から

$$\overrightarrow{GM} \cdot \overrightarrow{GN} = 2 \times 4 + (-4) \times 0 + 0 \times (-2) = 8$$

$$|\overrightarrow{GM}| = \sqrt{2^2 + (-4)^2 + 0^2} = 2\sqrt{5}$$

$$|\overrightarrow{GN}| = \sqrt{4^2 + 0^2 + (-2)^2} = 2\sqrt{5}$$

よって $\cos \theta = \frac{\overrightarrow{GM} \cdot \overrightarrow{GN}}{|\overrightarrow{GM}| |\overrightarrow{GN}|} = \frac{8}{2\sqrt{5} \cdot 2\sqrt{5}} = \frac{2}{5}$

- (3) (2) の結果から $\sin \theta = \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = \frac{\sqrt{21}}{5}$

よって $\Delta GMN = \frac{1}{2} |\overrightarrow{GM}| |\overrightarrow{GN}| \sin \theta$

$$= \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{5} \cdot 2\sqrt{5} \times \frac{\sqrt{21}}{5} = 2\sqrt{21}$$

- (4) 三角錐 FG MN において $\triangle GMN$ を底辺とする高さを h とすると、三角錐 FG MN の体積により

$$\frac{1}{3}\triangle GMN \times h = \frac{1}{3}\triangle MFG \times FN$$

したがって
$$\frac{1}{3} \times 2\sqrt{21} \times h = \frac{1}{3} \times \frac{1}{2} \cdot 4 \cdot 4 \times 2$$

これを解いて
$$h = \frac{8}{\sqrt{21}} = \frac{8\sqrt{21}}{21}$$

- (5) $\overrightarrow{OF} = \alpha\overrightarrow{OG} + \beta\overrightarrow{OM} + \gamma\overrightarrow{ON}$ とおくと (α, β, γ は実数)

$$\begin{aligned} (4, 4, 4) &= \alpha(0, 4, 4) + \beta(2, 0, 4) + \gamma(4, 4, 2) \\ &= (2\beta + 4\gamma, 4\alpha + 4\gamma, 4\alpha + 4\beta + 2\gamma) \end{aligned}$$

成分を比較して $\beta + 2\gamma = 2, \quad \alpha + \gamma = 1, \quad 2\alpha + 2\beta + \gamma = 2$

ゆえに $\alpha = \frac{1}{5}, \beta = \frac{2}{5}, \gamma = \frac{4}{5}$ すなわち $\overrightarrow{OF} = \frac{1}{5}\overrightarrow{OG} + \frac{2}{5}\overrightarrow{OM} + \frac{4}{5}\overrightarrow{ON}$

$\overrightarrow{OP} = k\overrightarrow{OF}$ とおくと (k は実数)

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OP} &= k \left(\frac{1}{5}\overrightarrow{OG} + \frac{2}{5}\overrightarrow{OM} + \frac{4}{5}\overrightarrow{ON} \right) \\ &= \frac{k}{5}\overrightarrow{OG} + \frac{2k}{5}\overrightarrow{OM} + \frac{4k}{5}\overrightarrow{ON} \end{aligned}$$

このとき、P は平面 GMN 上の点であるから

$$\frac{k}{5} + \frac{2k}{5} + \frac{4k}{5} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad k = \frac{5}{7} \quad \text{よって} \quad \overrightarrow{OP} = \frac{5}{7}\overrightarrow{OF}$$

- 3 (1) $P(p, q)$, $Q(q, q^2)$ であるから, 直線 PQ の傾き a は

$$a = \frac{q^2 - p^2}{q - p} = p + q$$

- (2) $a = 1$ より $\tan \theta_1 = 1$ これをみたす θ_1 ($0 < \theta_1 < \pi$) は $\theta_1 = \frac{\pi}{4}$

- (3) (2) 結果から, 直線 PR と x 軸の正の向きとなす角 θ_2 ($0 < \theta_2 < \pi$) は, $r < p$ に注意して

$$\theta_2 = \theta_1 + \frac{\pi}{3} = \frac{\pi}{4} + \frac{\pi}{3} = \frac{7}{12}\pi$$

また, 直線 PR , QR の傾きは, (1) と同様にして

$$p + r = \tan \theta_2 = \tan \frac{7}{12}\pi = -2 - \sqrt{3}$$

$$q + r = \tan\left(\theta_1 - \frac{\pi}{3}\right) = \tan\left(-\frac{\pi}{12}\right) = -2 + \sqrt{3}$$

$a = 1$ であるから, (1) の結果および上の 2 式から

$$p + q = 1, \quad p + r = -2 - \sqrt{3}, \quad q + r = -2 + \sqrt{3}$$

これを解くと $p = \frac{1}{2} - \sqrt{3}, \quad q = \frac{1}{2} + \sqrt{3}, \quad r = -\frac{5}{2}$

$\theta_1 = \frac{\pi}{4}$ より $PQ = \sqrt{2}(q - p) = \sqrt{2} \times 2\sqrt{3} = 2\sqrt{6}$

よって $\triangle PQR = \frac{1}{2}(2\sqrt{6})^2 \sin 60^\circ = 6\sqrt{3}$

- (4) $a = 2$ より, (1) の結果から $p + q = 2 \dots \textcircled{1}$

$S(1, 1)$ より $\vec{SP} = (p - 1, p^2 - 1) = (p - 1)(1, p + 1)$

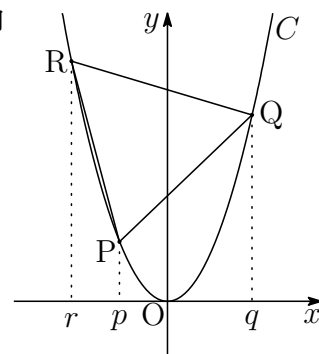
$\vec{SQ} = (q - 1, q^2 - 1) = (q - 1)(1, q + 1)$

$\angle S = \frac{\pi}{2}$ より $\vec{SP} \cdot \vec{SQ} = 0$ であるから

$$1 \cdot 1 + (p + 1)(q + 1) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad pq + p + q + 2 = 0$$

$\textcircled{1}$ を上式に代入すると $pq = -4$

よって $\triangle PQS = \frac{1}{2}|(p - 1)(q - 1)||1(q + 1) - 1(p + 1)|$
 $= \frac{1}{2}|pq - (p + q) + 1|(q - p) = \frac{1}{2}|-4 - 2 + 1|(q - p)$
 $= \frac{5}{2}(q - p) = \frac{5}{2}\sqrt{(p + q)^2 - 4pq} = \frac{5}{2}\sqrt{2^2 - 4 \cdot (-4)} = 5\sqrt{5}$



$$\boxed{4} \quad (1) \quad \overrightarrow{OM} = \frac{1}{2}(\vec{b} + \vec{c}), \quad \overrightarrow{AM} = \overrightarrow{OM} - \overrightarrow{OA} = \frac{1}{2}(\vec{b} + \vec{c}) - \vec{a}$$

$$(2) \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}| \cos 60^\circ = 1 \cdot 1 \times \frac{1}{2} = \frac{1}{2}, \quad \vec{a} \cdot \vec{c} = |\vec{a}||\vec{c}| \cos 60^\circ = 1 \cdot 1 \times \frac{1}{2} = \frac{1}{2}$$

$$\begin{aligned} \text{また} \quad |\vec{b} + \vec{c}|^2 &= |\vec{b}|^2 + 2\vec{b} \cdot \vec{c} + |\vec{c}|^2 \\ &= 1^2 + 2 \cdot 1 \cdot 1 \cos \theta + 1^2 = \mathbf{2 + 2 \cos \theta} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (3) \quad \overrightarrow{OH} \cdot \overrightarrow{BC} &= \{(1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OM}\} \cdot (\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OB}) \\ &= \left\{ (1-t)\vec{a} + \frac{t}{2}(\vec{b} + \vec{c}) \right\} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) \\ &= (1-t)(\vec{c} \cdot \vec{a} - \vec{a} \cdot \vec{b}) + \frac{t}{2}(|\vec{c}|^2 - |\vec{b}|^2) \\ &= (1-t) \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{2} \right) + \frac{t}{2}(1-1) = 0 \end{aligned}$$

したがって $\overrightarrow{OH} \perp \overrightarrow{BC}$

(2)の結果に注意して

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OH} \cdot \overrightarrow{AM} &= \left\{ (1-t)\vec{a} + \frac{t}{2}(\vec{b} + \vec{c}) \right\} \cdot \left\{ -\vec{a} + \frac{1}{2}(\vec{b} + \vec{c}) \right\} \\ &= (t-1)|\vec{a}|^2 + \left\{ \frac{1}{2}(1-t) - \frac{t}{2} \right\} \vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) + \frac{t}{4}|\vec{b} + \vec{c}|^2 \\ &= (t-1) + \left(\frac{1}{2} - t \right) + \frac{t}{4}(2 + 2 \cos \theta) \\ &= -\frac{1}{2} + \frac{t}{2}(1 + \cos \theta) \end{aligned}$$

$\overrightarrow{OH} \perp \overrightarrow{AM}$ より, $\overrightarrow{OH} \cdot \overrightarrow{AM} = 0$ であるから

$$-\frac{1}{2} + \frac{t}{2}(1 + \cos \theta) = 0 \quad \text{よって} \quad t = \frac{1}{1 + \cos \theta}$$

(4) (2), (3) の結果を用いると

$$\begin{aligned}
 |\vec{OH}|^2 &= \left| (1-t)\vec{a} + \frac{t}{2}(\vec{b} + \vec{c}) \right|^2 \\
 &= (1-t)^2|\vec{a}|^2 + t(1-t)\vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) + \frac{t^2}{4}|\vec{b} + \vec{c}|^2 \\
 &= (1-t)^2 + t(1-t) + \frac{t^2}{4}(2 + 2\cos\theta) \\
 &= 1-t + \frac{1}{2}t^2(1 + \cos\theta) = 1 - \frac{1}{1 + \cos\theta} + \frac{1}{2(1 + \cos\theta)} \\
 &= \frac{1 + 2\cos\theta}{2(1 + \cos\theta)}
 \end{aligned}$$

よって $h = |\vec{OH}| = \sqrt{\frac{1 + 2\cos\theta}{2(1 + \cos\theta)}}$

$\vec{OM} \perp \vec{AM}$ のとき, $\vec{OH} = \vec{OM}$ であるから

$$(1-t)\vec{a} + \frac{t}{2}(\vec{b} + \vec{c}) = \frac{1}{2}(\vec{b} + \vec{c}) \quad \text{ゆえに} \quad (1-t) \left\{ \vec{a} - \frac{1}{2}(\vec{b} + \vec{c}) \right\} = \vec{0}$$

したがって $(1-t)(\vec{OA} - \vec{OM}) = \vec{0}$

A と M は異なる点であるから $1-t=0$ よって $t=1$

これを (3) の結果に代入すると

$$\frac{1}{1 + \cos\theta} = 1 \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{\pi}{2} \quad \text{このとき} \quad h = \sqrt{\frac{1}{2}} = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

$$\boxed{5} \quad (1) \quad \begin{cases} a_1 = 1 \\ a_{n+1} - (\sqrt{2} + 1)a_n = 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \end{cases}$$

上の漸化式およびその補助方程式は

$$\begin{cases} a_{n+1} = (\sqrt{2} + 1)a_n + 1 & \dots \textcircled{1} \\ c = (\sqrt{2} + 1)c + 1 & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

$$\textcircled{1} - \textcircled{2} \text{ から } a_{n+1} - c = (\sqrt{2} + 1)(a_n - c)$$

$$\textcircled{2} \text{ を解いて } c = -\frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$\text{したがって } a_{n+1} + \frac{1}{\sqrt{2}} = (\sqrt{2} + 1) \left(a_n + \frac{1}{\sqrt{2}} \right)$$

数列 $\left\{ a_n + \frac{1}{\sqrt{2}} \right\}$ は、初項 $1 + \frac{1}{\sqrt{2}}$ 、公比 $\sqrt{2} + 1$ の等比数列であるから

$$a_n + \frac{1}{\sqrt{2}} = (\sqrt{2} + 1)^{n-1} \left(1 + \frac{1}{\sqrt{2}} \right)$$

$$\text{よって } a_n = \frac{(\sqrt{2} + 1)^n - 1}{\sqrt{2}}$$

$$\sqrt{2} + 1 > 1 \text{ であるから } \lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \infty$$

(2) 求める極限値は

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{k}{n^2 + k^2} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \frac{\frac{k}{n}}{1 + \left(\frac{k}{n}\right)^2} \\ &= \int_0^1 \frac{x}{1 + x^2} dx = \left[\frac{1}{2} \log(1 + x^2) \right]_0^1 = \frac{\log 2}{2} \end{aligned}$$

$$(3) \sqrt{x} + \sqrt{y} = 1 \text{ より } S = \pi \int_0^1 y^2 dx = \pi \int_0^1 (1 - \sqrt{x})^4 dx$$

$$t = 1 - \sqrt{x} \text{ とおくと } \begin{array}{c|c|c} x & 0 & \rightarrow & 1 \\ t & 1 & \rightarrow & 0 \end{array} \quad x = (1-t)^2 \text{ より } \frac{dx}{dt} = 2(t-1)$$

$$\begin{aligned} \text{よって } S &= \pi \int_1^0 t^4 \cdot 2(t-1) dt \\ &= \pi \int_0^1 (-2t^5 + 2t^4) dt = \pi \left[-\frac{1}{3}t^6 + \frac{2}{5}t^5 \right]_0^1 = \frac{\pi}{15} \end{aligned}$$

6 (1) $f(x) = \frac{1+x}{1-x} = -\frac{2}{x-1} - 1 = -2(x-1)^{-1} - 1$ より

$$f'(x) = 2(x-1)^{-2} \quad f''(x) = -4(x-1)^{-3}$$

$$= \frac{2}{(x-1)^2} \quad = -\frac{4}{(x-1)^3}$$

(2) $\lim_{x \rightarrow -\infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow -\infty} \left(-\frac{2}{x-1} - 1 \right) = -1$

$$\lim_{x \rightarrow 1-0} f(x) = \lim_{x \rightarrow 1-0} \left(-\frac{2}{x-1} - 1 \right) = \infty$$

$$\lim_{x \rightarrow 1+0} f(x) = \lim_{x \rightarrow 1+0} \left(-\frac{2}{x-1} - 1 \right) = -\infty$$

$$\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \left(-\frac{2}{x-1} - 1 \right) = -1$$

(3) $f(x) = -\frac{2}{x-1} - 1$ より, 格子点の x 座標は

$$x-1 = \pm 1, \pm 2 \quad \text{すなわち} \quad x = -1, 0, 2, 3$$

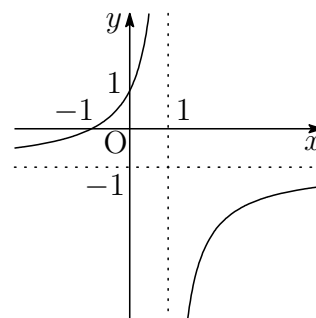
よって, 求める格子点の座標は

$$(-1, 0), (0, 1), (2, -3), (3, -2)$$

(4) $y = -\frac{2}{x-1} - 1$ より漸近線の方程式は

$$x = 1, \quad y = -1$$

したがって, 求めるグラフの概形は,
右のようになる.



(5) 求める図形の面積を S とすると

$$S = \int_{-1}^0 f(x) dx = \int_{-1}^0 \left(-\frac{2}{x-1} - 1 \right) dx$$

$$= \left[-2 \log |x-1| - x \right]_{-1}^0 = 2 \log 2 - 1$$

- 7 (1) $\cos 2x = 1 - 2\sin^2 x$ より $f(x) = 1 - 2\sin^2 x - 4\sin^3 x$
 $t = \sin x$ ($0 \leq x \leq \pi$), $g(t) = f(x)$ とおくと

$$\begin{aligned} g(t) &= -4t^3 - 2t^2 + 1 & (0 \leq t \leq 1) \\ g'(t) &= -12t^2 - 4t \\ &= -4t(3t + 1) \end{aligned}$$

$0 \leq t \leq 1$ において, $g'(t) < 0$ であるから, $g(t)$ は単調減少.

よって $t = 0$ すなわち $x = 0, \pi$ のとき 最大値 1
 $t = 1$ すなわち $x = \frac{\pi}{2}$ のとき 最小値 -5

(2) $f(x) = \cos 2x - 4\sin^3 x = \cos 2x - 4(1 - \cos^2 x)\sin x$
 $= \cos 2x - 4\sin x + 4\cos^2 x \sin x$

よって $\int f(x) dx = \frac{1}{2} \sin 2x + 4 \cos x - \frac{4}{3} \cos^3 x + C$ (C は積分定数)

別解 $\sin 3x = 3\sin x - 4\sin^3 x$ より $f(x) = \cos 2x + \sin 3x - 3\sin x$

よって $\int f(x) dx = \frac{1}{2} \sin 2x - \frac{1}{3} \cos 3x + 3 \cos x + C$ (C は積分定数)

(補足) $\cos 3x = 4\cos^3 x - 3\cos x$

(3) $g(t) = -4t^3 - 2t^2 + 1 = -(2t - 1)(2t^2 + 2t + 1)$
 $= -(2t - 1) \left\{ 2 \left(t + \frac{1}{2} \right)^2 + \frac{1}{2} \right\}$

上式から, $g(t) = 0$ ($0 \leq t \leq 1$) の解は $t = \frac{1}{2}$

よって $f(x) = 0$ ($0 \leq x \leq \pi$) の解は $x = \frac{\pi}{6}, \frac{5}{6}\pi$

- (4) (3) の結果から, $\frac{\pi}{6} \leq x \leq \frac{5}{6}\pi$ すなわち $\frac{1}{2} \leq t \leq 1$ において $g(t) \leq 0$
よって, (2), (3) の結果から, 求める面積を S とすると

$$S = - \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{5}{6}\pi} f(x) dx = - \left[\frac{1}{2} \sin 2x + 4 \cos x - \frac{4}{3} \cos^3 x \right]_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{5}{6}\pi} = \frac{7\sqrt{3}}{2}$$

8 (1) $f(x) = e^{-x} \sin x$ ($x \geq 0$) について, $f(x) = 0$ となる x の値であるから

$$\sin x = 0 \quad \text{これを解いて} \quad x = n\pi \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

よって, 求める点 P_n の x 座標は $x = n\pi$

$$(2) (1) \text{の結果から} \quad S_n = \int_{(n-1)\pi}^{n\pi} |e^{-x} \sin x| dx$$

$$\text{ここで, } x = t + (n-1)\pi \text{ とおくと} \quad \begin{array}{c|c} x & (n-1)\pi \longrightarrow n\pi \\ \hline t & 0 \longrightarrow \pi \end{array} \quad \frac{dx}{dt} = 1$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad S_n &= \int_0^\pi |e^{-t-(n-1)\pi} \sin\{t + (n-1)\pi\}| dt \\ &= e^{-(n-1)\pi} \int_0^\pi e^{-t} \sin t dt \\ &= e^{-(n-1)\pi} \left[-\frac{1}{2} e^{-t} (\sin t + \cos t) \right]_0^\pi \\ &= e^{-(n-1)\pi} \times \frac{e^{-\pi} + 1}{2} = \frac{(e^{-\pi} + 1)e^{-(n-1)\pi}}{2} \end{aligned}$$

(3) (2) の結果から

$$\begin{aligned} I_n &= \sum_{k=1}^n S_k = \frac{e^{-\pi} + 1}{2} \sum_{k=1}^n e^{-(k-1)\pi} \\ &= \frac{e^{-\pi} + 1}{2} \times \frac{1 - e^{-n\pi}}{1 - e^{-\pi}} = \frac{(1 + e^{-\pi})(1 - e^{-n\pi})}{2(1 - e^{-\pi})} \end{aligned}$$

また, $0 < e^{-\pi} < 1$ より, $\lim_{n \rightarrow \infty} e^{-n\pi} = 0$ であるから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} I_n = \frac{1 + e^{-\pi}}{2(1 - e^{-\pi})} = \frac{e^\pi + 1}{2(e^\pi - 1)}$$